

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「春の空」 教材名「春の空」

2 単元の目標

親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（〔知識及び技能〕(3)ア）

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（B(1)ア）

春の空や自然を表す語の響きや意味を確かめ、自分の表現に使う学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア）	①春の空や自然を表す語の響きや意味を確かめ、自分の表現に使う学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

春の空や自然を表す語の響きや意味を確かめ、自分の表現に使う。この教材では、春の語と意味、伝えたい様子を表す自作文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教科書で扱う季節の語の意味を実物・写真・辞書で確認する。行事の経験がない児童も、学校で見聞した自然や暮らしから表す対象を選べるようにする。古文の内容は教材の解説で確かめ、言葉の調子を味わう時間を残す。想定する難しさは、季節の語を集めるだけで、語の意味や自分が表したい様子を確認できない。評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいるかを、春の語と意味、伝えたい様子を表す自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教科書にある季節の古文を手元で音読し、語の意味と響きから情景を想像する。春の自然や暮らしの言葉を教科書で確かめ、見聞きした様子と対応させる。意味の近い語を比べ、伝えたい様子に合う語で短い文章を書く。友達が思い浮かべた様子を聞き、表す語を選び直す。読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「空のどんな様子を、この言葉で表したいですか」 【めあて】春の空や自然を表す語の響きや意味を確認め、自分の表現に使う。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ季節でも言葉によって思い浮かぶ様子が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「空のどんな様子を、この言葉で表したいですか」 教科書にある季節の古文を手元で音読し、語の意味と響きから情景を想像する。春の自然や暮らしの言葉を教科書で確認め、見聞きした様子と対応させる。意味の近い語を比べ、伝えたい様子に合う語で短い文章を書く。友達が思い浮かべた様子を聞き、表す語を選び直す。 読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ季節でも言葉によって思い浮かぶ様子が違う。 ・見た場所や感じたことに合う言葉を選びたい。	教科書で扱う季節の語の意味を実物・写真・辞書で確認する。行事の経験がない児童も、学校で見聞きした自然や暮らしから表す対象を選べるようにする。古文の内容は教材の解説で確認め、言葉の調子を味わう時間を残す。 想定する難しさ：季節の語を集めるだけで、語の意味や自分が表したい様子を確認めない。 評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいるかを、春の語と意味、伝えたい様子を表す自作文と活動中の発言・操作から確認め。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確認めた言葉や表現を含めて話す。 春の語と意味、伝えたい様子を表す自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認め。 〈予想される児童の反応〉 ・見た場所や感じたことに合う言葉を選びたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認め。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「空のどんな様子を、この言葉で表したいですか」。中央は、春の語と意味、伝えたい様子を表す自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

